

観望Ⅱ 中間育成入 Ⅲ

1. 方法

中間育成場を図2, 3に示した。

取り揚げ、輸送方法は前年度までの方法を改良し稚魚を水ごと移動するよう努めた。改良点は、飼育水槽からの取り揚げ時に目の細かいミューラーゲゼのネットを使用し稚魚を水ごとすくい取り計数後活魚輸送タンク(1.5 m^3 、11,500-20,000尾)に収容して輸送し、さらに中間育成場に到着後直径25mmのホースで水と一緒に生簀網に放養した。

使用した生簀網はほぼ前年度同様である。餌料は配合飼料でビタミン剤を添加した。

2. 結果及び考察

中間育成結果を表2に示した。

表2 中間育成結果

項目 \ 区分	1	2	3	4	5	6	7	合計
	月/日	7/3	7/3	7/3	7/18	7/27	7/23	
収容尾数 (尾)	20,000	20,000	12,000	15,000	20,000	20,000	11,500	118,500
全長 ($\bar{x} \pm SD_{mm}$)	23.6 \pm 3.46	23.6 \pm 3.46	23.6 \pm 3.46	24.3 \pm 1.97	20.5 \pm 2.73	20.5 \pm 2.73	20.5 \pm 2.73	20.5-24.3
月/日	10/24	10/23	10/24	11/24	11/24	11/25	11/25	
飼育日数 (日)	114	113	114	130	121	122	122	
尾数 (尾)	7,011	6,765	5,720	10,901	14,192	13,910	8,591	67,090
生残率 (%)	35.1	33.8	47.7	72.7	70.9	69.6	74.7	56.6
尾又長 ($\bar{x} \pm SD_{mm}$)	83.1 \pm 9.4	84.3 \pm 9.3	90.9 \pm 10.6	109.1 \pm 13	94.7 \pm 12.6	94.5 \pm 13.4	95.9 \pm 12.8	83.1-109.1

1-3区は辺土名漁港内で4-7区は屋我地島前垣地先である。

113-130日間飼育後の左腹鰭除去時には67,090尾の生残で、中間育成中の生残率は平均56.6%と前年に比べ向上した。1-3区は夏期の高水温時に網替えの遅れによる斃死がかなりあったことから、この様な事故なければ4-7区同様70%前後の生残率は可能と思われた。